

赤潮発生状況について

西岡智哉・酒井基介・平野 匠

平成23年度に徳島県沿岸域で発生した赤潮について、公式に記録することを目的とする。

方法

漁場環境調査等における観測や漁業者からの聞き取りを元に、赤潮の発生期間、発生海域、赤潮構成種、及び漁業被害についてまとめた。

結果及び考察

表1に平成23年度の赤潮発生状況、図1に赤潮発生件数と被害件数の推移、図2に赤潮発生海域をそれぞれ示した。本年度は前年度と同数の2件の発生がみられた。1月中旬から2月中旬にかけて、紀伊水道沿岸で珪藻の*Eucampia zodiacus*による赤潮によって、県南海域ではワカメやノリの色落ちが発生した。今年度は7月上旬に播磨灘や内の海において有害種の*Chattonella*属の一時的な増加が見られた。しかし、その後すぐに*Skeletonema*属や*Chaetoceros*属を中心とした珪藻が優占したため、有害種が広範囲に長期間にわたって高密度化することがなかったと考えられる。



図2．赤潮発生海域。図中の番号は表1に示した赤潮の番号を示している。

表1．平成23年度の赤潮発生状況

番号	発生期間	日数	発生海域	赤潮構成種	漁業被害	最高細胞数 (cells/ml)
1	6/6～6/12	7	徳島市～小松島市沿岸	<i>Skeletonema</i> spp.	無	32,600
2	1/18～2/15	29	松茂町長原～阿南市中林町沿岸	<i>Eucampia zodiacus</i>	藻類の色落ち	953

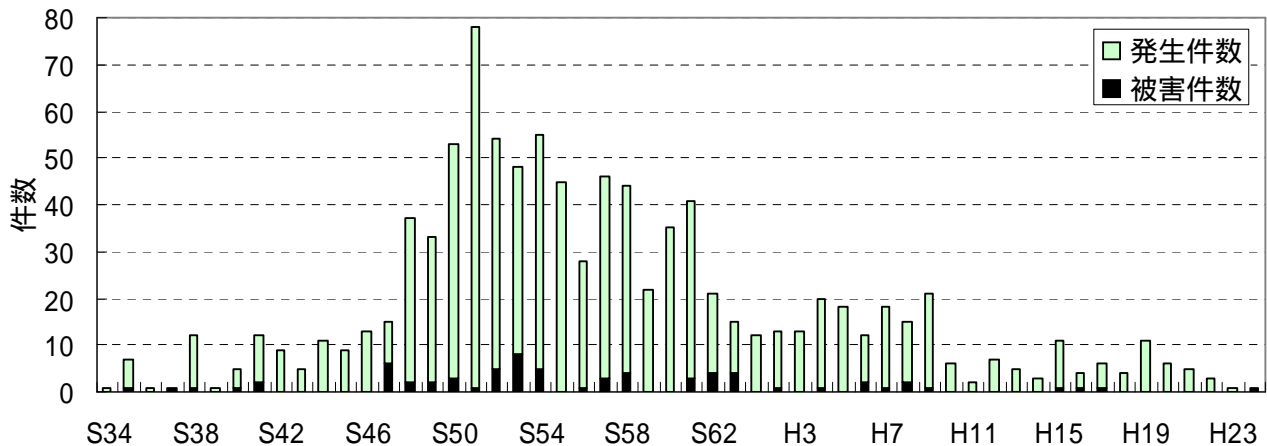


図1．赤潮の発生件数と被害件数の推移